

Planetek Italia

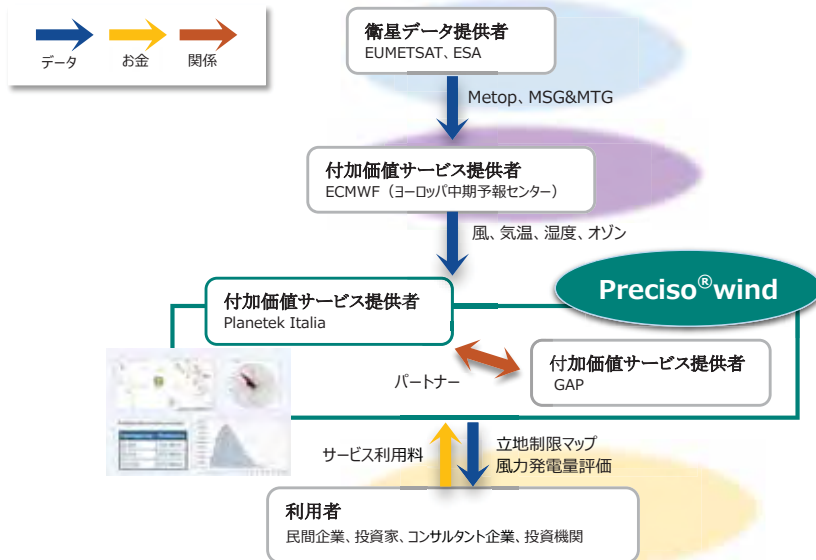
成功のポイント

- 風力観測は必要なく、数値解析モデルによる複数年のシミュレーション結果を使用することで風情報を短期間で提供できる。
- 風速計の購入や設置のコストがかからない。
- 風データを主題図で表示できるだけでなく Web ブラウザでリアルタイムに閲覧、分析できる。

ビジネスの仕組み

利用者やパートナーとの関係

利用者は投資家、コンサルタント企業や投資機関などである。パートナーはバリー工科大学に属するスピンオフ企業の GAP 社である。



波及効果

- Preciso®wind を使用することで、利用者は素早く投資の経済的リターンを評価することができる。
- 再生可能エネルギーの活用支援を通じて、温暖化防止への貢献が見込まれる。
- ローカルにエネルギーが供給できるため、地域活性化への貢献が見込まれる。

RapidEye imagery for REDD+ MRV activities

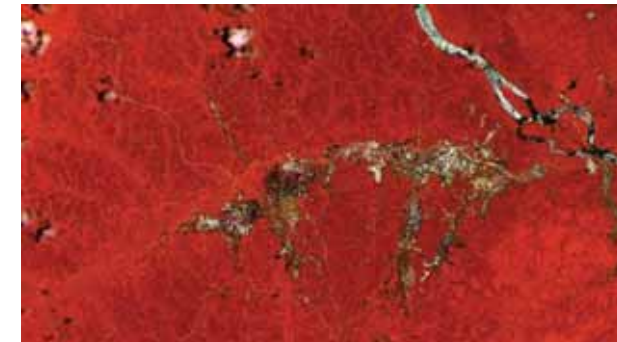
森林減少と森林劣化 ガイアナ共和国への適用例

○ アピールポイント

- ホスト国のみならず、関係する国際機関に幅広くアプローチしている。
- 植生評価に適したセンサ性能と 5 機の衛星群（コンステレーション）による高い時間分解能を武器にビジネスを展開している。

サービスの概要

2009 年にノルウェーとガイアナの両政府は、ガイアナの森林を保護するため、国家規模としては初の REDD+（途上国の森林保全活動に対する先進国政府、国際機関、民間企業、非政府組織の経済的・技術的支援活動）プロジェクトを実施した。目的は、国家的な森林減少と森林劣化を報告するため、信頼のおける方法による MRV（測定、報告、検証）システムを構築することである。このプロジェクトでは、RapidEye 衛星の画像を使用する方法で現在まで 4 年連続で使われている。REDD+ MRV 活動に取り組む世界中の国々と、この方法を共有することも目的の一つである。



ガイアナにおける森林劣化の検出

英国ダラム大学が RapidEye 画像を用いた森林減少と森林劣化の分布図の検証を行った。その結果、RapidEye 画像が REDD+ MRV 活動に適合していると評価された。

リモートセンシングデータの活用方法

RapidEye 衛星は 4 年間で約 12 万 km² 以上の画像を収集している。5m の分解能を持つ RapidEye 画像を使用することで、森林減少と森林劣化の分布図作成とモニタリングを非常に高い精度で実現している。

ガイアナ政府は RapidEye 画像を用いた MRV システムを確立し、国家レベルで森林地帯の変化を毎年報告している。

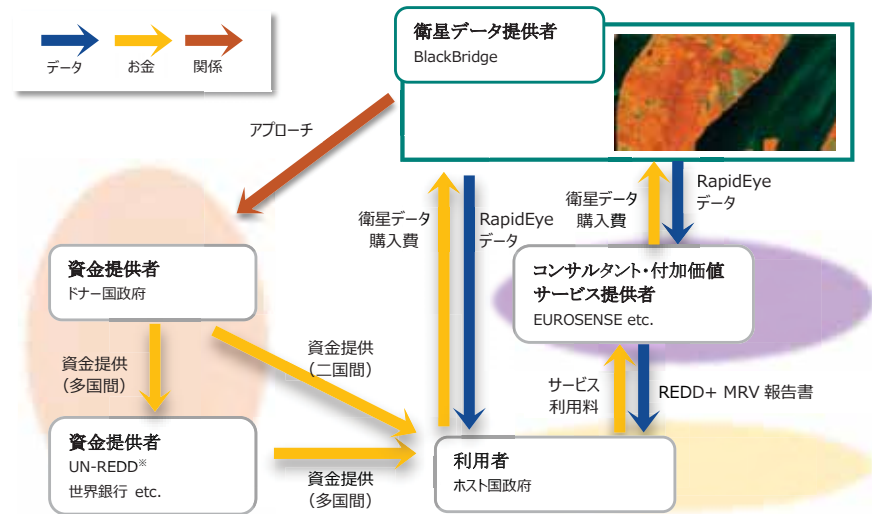
BlackBridge

成功のポイント

- 森林減少と森林劣化の詳細を確認するのに 5m 分解能の画像を使っている。ガイアナ共和国のようなケースでは、ほとんどの森林劣化が金採掘によって発生し、5m 程度の分解能の画像でしかそれを検出できない点が特に重要である。
- 5機の RapidEye 衛星によるコンステレーションで、短期間で国全体をカバーするデータが収集できる。
- 他のセンサと比較して、RapidEye センサは植生をより正確にモニタリング及び分析することができる。
- BlackBridge社は REDD+に取り組む全ての国々を対象にデータを収集し森林の変化がわかる画像を提供している。
- 現在の 5機の衛星はあと数年運用が可能であるが、次世代の RapidEye 衛星についての計画も進め、データの連続性の確保に努めている。

ビジネスの仕組み

利用者やパートナーとの関係



※国連食糧農業機関 (FAO)、国連開発計画 (UNDP)、国連環境計画 (UNEP) による、REDD に関する国連の共同の取組みである。途上国の REDD+実施に向けた準備活動 (能力向上、技術支援、REDD 戦略と制度の策定) やパイロットプロジェクトの設計・実施を支援している。

波及効果

- REDD+に取り組む国々の森林減少と森林劣化をより高い精度でモニタリングできる。
- 上記に基づいて森林変化量を報告することで、ドナー国政府から資金の支援を受けることができる。

欧州事例 4

TalkingFields

衛星サービスを統合して穀物生産を最適化

◎ アピールポイント

- 学術成果である作物生育モデルを活かした農場管理情報システムである。
- 地球観測、通信、測位の衛星サービスを統合利用している。

サービスの概要

TalkingFields は、農業経営者に対し、様々な農業用のアプリケーションを提供する。地球観測衛星から得た情報と作物生育モデルを使い、通信衛星を利用して地上通信網が十分でないエリアをカバーし、測位衛星により農業・肥料散布等の精密農業における位置検出を行うことで、独自性と革新性のある農業管理サービスを提供している。



リモートセンシングデータの活用方法

有償及び無償の光学衛星のアーカイブデータを使用し、圃場図等を作成している。一方、様々な最新の衛星データから、バイオマスの分布や収量予測を行っている。